

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791500020		
法人名	有限会社 かるすと		
事業所名	グループホームもとぶ		
所在地	沖縄県国頭郡本部町豊原262番地1		
自己評価作成日	令和4年1月17日	評価結果市町村受理日	令和4年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=4791500020-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和3年 2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた当事業所は見晴らしがよく遠くは八重岳、瀬底島が望め室内は木目を多く使い明るく暖かな落ち着いた環境の中で入居者様と裏庭で小さいながらも菜園で育てた野菜や花を収穫したり海を眺め日光浴を行い天気の良い日は散歩やドライブに出かけたりと、恵まれた環境で日々落ち着いて過ごしていただけるよう1人1人のペースを大切に家庭的で楽しく安心して生活できるように支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本線から脇道に入った住宅が点在するのどかな集落の奥にある事業所で、敷地内にグループホーム、デイサービスがあり周辺は木々に囲まれている。事業所は地元の方を大切にしており、利用者・職員とも地元出身者が多く、理念にもある家庭的な環境という視点から馴染みのある方言での会話を楽しむことができている。また、食事は3食全てを職員の手作りで提供し、食事への拘り、重要性が利用者の生活を支えている事を理解した上で、調理する前に利用者には何が食べたいかリクエストを確認し、その日のメニューに取り入れられるように臨機応変に対応している。また、介護サービス計画については、利用者とその家族に対する書類の一つとして、『見やすさ』に配慮し、文字の大きさと枠に広さを確保し、職員にも同様の効果を得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を施設内に掲示している。また名刺の裏にも記載している。	事業所内に掲示している理念を職員に声かけし、入社した職員にも理念を伝えている。新型コロナウイルス感染対策として職員ミーティングを休止しており、全体への定期的な周知は行っていない。そのため、職員も理念を把握できず、日々の支援に反映できるような話し合い、取り組みを実践する工夫も確認できない。	理念の共有と意識づけはサービスの根幹であり、管理者と職員の実践に大きな影響を与えることを再認識いただき、利用者とその家族に対して安心と信頼感を得られるような日々の支援に反映させられる取り組みと工夫を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防のため交流などの活動は行っていない	管理者のみ自治会、区長らとの情報交換を行っている。顔なじみの近隣住民が時折出演するコミュニティFMの番組を利用者が楽しみながら聴いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防のため交流などの活動は行っていない	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防のため運営推進会議未開催	令和2年10月20日を最後に未開催となっている。新型コロナウイルス感染対策のため、対面の会議は中止という方針を都度、委員に書面で「中止のお知らせ」を郵送している。構成員である家族、行政、地域代表、知見者らにはこの中止期間中の事業所の情報が共有されていない状態となっている。	会議中止の対策として事業所運営に関する内容を書面や電話で構成員に対して郵送し、意見の有無、要望の有無や照会を行うなど、他グループホームの取り組みを参考にすることで構成員と事業所間での情報共有が機能することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染予防のためほぼ電話やメールでのやり取りになっている	役場の担当者とは電話やメールでの情報交換が主になっている。新型コロナのワクチン予防接種やPCR検査などについて、事前説明会の開催情報を行政から提供してもらうなど、連携を密に行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	書籍や印刷物などで身体拘束での弊害を職員に伝え共通認識をとれるようにしている。	身体拘束に関するマニュアル、認知症ケアに関するマニュアルを整備して閲覧できるようにしている。日々の支援の中で職員の言葉使いや身体拘束に繋がる恐れを管理者が把握した際には適切なタイミングで指導している。身体拘束等の適正化のための委員会と研修が実施されていない。	運営推進会議同様に書面開催を模索して情報公開、共有を実現することを期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	書籍や印刷物などで職員が理解し日中は出入りは自由に行えるようにしている、1人で出た際は安全に配慮し必ず職員が付き添いを行っている。	管理者は職員の体調の様子に気を配り、都度声をかけている。また、職員と利用者の家族のような信頼関係が構築されている場合にも、言葉づかいが行き過ぎることがないように注意を払っており、不適切なケアから虐待に発展しないよう努めている。定期的な研修は実施していない。	対面だけでなく、オンラインや動画など可能な工夫を凝らした研修の開催を期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している入居者はいないが、役所にて制度についてアドバイスをいただいたり情報を交換したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書と重要事項説明書を読み合わせを行って説明している。質問や不安に思っていることなどに答えながら理解と同意を頂き契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には意思、希望の確認、家族は面会時や運営推進会議などで意見や要望を聞くようにしている。職員や代表者と検討し運営に活かしている。	利用者個別の連絡を家族に行う際に、普段の様子を丁寧に伝えることに留意して、家族からも質問・相談ができるよう配慮している。その他にも事業所の統一された情報を家族全員にメールにて知らせる。また、SNSを駆使してコミュニケーションを円滑にして意見・要望が言いやすい関係づくりを実践している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や日中のミニミーティング毎月のミーティング時に職員から出た意見提案を生かせる様に職員で共有検討を行い運営に反映させている。	管理者は昨年度実施された二回の全体ミーティングや日々の支援の中で職員からの運営や業務改善に関する意見や要望を引き出している。夜勤者の業務量の調整を図るための声やテイルームのテーブルに置いている利用者が軽作業をかねて折りたたんでいた板切り紙を感染予防の観点からティッシュ箱に変更するなどの提案が実現している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の健康診断の実施や資格所得に向けて、時間的支援や子育て中の職員には子供の発熱や体調不良時には早退したり休みを取れるようにしたり、職場環境・条件の整備に努めている。	休暇や年次有給休暇など就業規則が整備されており、職員の事情に合わせた勤務時間、配置が行われている。資格取得を目指して通学する職員には勤務体制に配慮するなど資格取得のバックアップに努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染予防のため研修会などの活動は行っていないが面談やOJTなどを通し育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染予防のためほぼ電話やメールでのやり取りになっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設見学と相談受付、入所後に面談を行いその方の生活状態を把握する様に努めご本人が求めていることや不安を理解することを心がけている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナウイルス感染予防のため見学など短時間でのたいおうになっているため入所前後は頻回に電話やメースなどで連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては他事業所のサービスを紹介するなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事、洗濯、掃除など入居者の得意なことを伺ったり、教えて頂きながら力を発揮していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や要望をご家族へ電話連絡やメールなどで報告している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防のため希望者にはテレビ電話で面会を行っている	まん延防止が解除されていた時期に利用者の希望していた馴染みの美容室に家族付き添いで出かけて、数年振りの再開を果たせた。また、制限が強化された際には利用者と家族によるテレビ電話での交流支援をおこなっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間での相性を見極め、会話を楽しめるように席決めを行い孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族が次のサービスに継げる支援をしたり、必要に応じての相談を受けフォローするなど、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に希望要望を本人と家族から聞き取りを行い入所後も日常会話などから本人の暮らしの希望、要望を聞き本人の意向を把握するように努めている。	日々の支援の中から利用者の意向の把握に努めている。他利用者との人間関係に悩みを抱える利用者に対して相談の上で部屋で過ごす時間を増やすことにし、ラジオを聴取することで穏やかに過ごせるようになった。また別の利用者は元気な頃から「花木が好きだった」ことから現在の意向を汲み取った上で部屋に植木鉢を置くなどし、利用者の意向から環境づくりをおこなった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に私の記録やジェノグラムを記入して頂き、友人、知人より話を伺い生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩行状態、バイタル測定、食事摂取動作会話などを通して把握に努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常会話の中から本人の希望や意向を聞き面会の折りに家族の希望や要望を聞き送りやミーティングでスタッフから意見を聞いている。	利用者と家族と意向の確認をしながら日々の生活を踏まえて介護サービス計画を作成している。計画の見直しは半年から一年、モニタリングは三ヶ月毎に実施、管理者は夜勤者から利用者の様子を聞き取り、モニタリングに反映させている。介護サービス計画の書式は利用者と家族に分かりやすく見やすいように、文字を大きくする、枠を広くするなど書式を工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングでの報告や申し送りを活用し情報の共有を行っている、個別記録を通し介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々希望や意向本人の状態に合わせたケアを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防のため地域行事には参加していない		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度の訪問診療時、主治医に病状や不安などの状態の報告し適切な医療を受けられるように支援している。歯科や精神科は個別で受診している	本人が希望する病院への通院や訪問診療を選択できるように入居時に説明している。家族が高齢なことや、遠方に住んでいることもあり、通院は管理者で対応し受診時の状況を後日家族へ報告している。年1回の健診の実施あり。認知症の具体的な診断名を職員で共有し、その特性や支援方法をミーティング等で確認している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入院時には面会へ行き、看護師や医師に話しを伺うようにしている。退院時のカンファレンスも出席するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常生活や服薬・身体状況の報告を行っている。面空き時は必ず医師や看護師との情報交換を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や面会時に、家族と話し合いを行い終末期の希望を聞き取りを行っている。現在施設での看取りはない。	重度化した場合における指針を作成している。入居時に重要事項説明書の中で説明し、希望を確認している。これまでに看取りは、病院を希望し退所していた。現在終末期を事業所と希望する利用者はいないが、今後のために、終末期に向けた対応など職員の体制を整えていくための勉強会を計画している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法など消防署で消防職員より講習を受けたり、定期的に施設において再確認を行っている。	事故発生時のフローチャートを作成し、事務所に掲示している。夜勤者は一人体制なこともあり、夜間の事故発生時には、フローチャート通りに対応することで慌てずに対応することができた。事故発生時には報告書を作成し、職員一人一人が日々の業務の中で意識付けができるように、その都度話をする機会をつくっている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的の実施している。	定期的に利用者とともに避難訓練を行い、方達にも協力してもらっている。災害時に備え、備品なども点検し準備している。コロナウイルス感染予防のため研修会や訓練などはできていない	年2回昼夜を想定した訓練を職員と利用者が一緒に行い、避難場所、避難経路を確認し、避難誘導がスムーズにできるように取り組んでいる。備蓄は3日分準備あり。期限切れ間際の食品は献立に取り入れ、災害時のメニュー作りに活かせるようにしている。感染症予防・まん延予防マニュアルの作成あり。勉強会等は今後計画し、実施していく予定をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導声かけや入浴などできるだけ同性職員が行っている。カーテンを閉めるなどプライバシーの確保に努めている、普段の会話でも人生の先輩として話しかけをおこなっている。	地元の方言で話す利用者も多く、職員も地元出身者が多いので、本人が馴染みのある方言での会話を楽しむことができている。本人の気持や希望を大切に考え、楽器が弾ける利用者には楽器を準備し、レクの時間や行事で演奏する機会をつくっている。本人ができること、楽しめることを継続できるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた気持ちで接し話やすい環境を作りひとり1人に合わせ自己決定ができる話しかけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が強制することなくその日の入居者のペースを大切にテレビを鑑賞したい方居室で休みたい方各々のペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ娘と知人と出かけたり移動美容室に事業所に来てもらい、希望に合わせたカットや毛染めをしてもらうなどの支援を行っている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや準備ができる方は職員と一緒に手伝ってもらいその人の力を発揮していただいている出来ない方にもテーブル拭きなどを手伝ってもらっている。利用者と職員と一緒に食事をして好みや調理法など話している。	3食を職員の手作りで食事を提供している。勤務シフトによって調理を担当、調理する前に利用者には何が食べたいかリクエストを確認して、その日のメニューに取り入れられるように臨機応変に対応している。食事の時間には、職員も同じメニューと一緒に食べ、利用者の好みなどを確認している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みの飲み物食べ物を提供したり食事時間をその日の本人のペースに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、声かけで行う方や歯ブラシやコップなどを準備すると行う方など、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを支援している。歯科受診で診てもらい治療している。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり1人の排泄パターンを把握し日中は居室トイレや共同トイレにて排泄を行っている	排泄チェック表を付け、本人の様子を確認しながら一人ひとりに合わせた排泄パターンを把握している。おむつを利用している利用者も、日中はトイレでの排泄ができることを大切にして、声掛け、誘導をしている。入居時にはおむつを利用からリハビリパンツに移行できた利用者もあり、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩を行ったり、便秘予防体操を行っている。食事に関してはヨーグルト、牛乳の提供や繊維食提供を行っている。便秘が続くようなら主治医に相談している		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助はできるだけ同姓介助で行っている。入浴曜日決まってはいるが、本人の希望で曜日を変えたり時間をずらしたり個人の希望を取り入れている。	入浴は、週3回となっているが本人の希望に応じて、入浴時間の変更や時間帯は臨機応変に対応している。脱衣所は、温度調整ができるように冷暖房器具を設置している。入浴を拒む利用者に対しては、言葉かけの工夫や職員間で対応を連携し一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が休みたい時に休息され入居者の生活リズムを大切にしている使い慣れた寝具を使ってもらい気持ちよく眠れるよう支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別日誌に薬情報をファイルし職員が把握できるようにしている薬の変更があった場合はグループラインで連絡る。	服薬に関するマニュアルは確認できず、薬は事務所で管理し、管理者が入居者毎に処方された分を準備している。夜勤者が翌日分を個別ケースに入れている。服薬前に、再度その日の担当職員で個別ケースから服用する薬を確認し、利用者へ配薬、飲み込みを確認している。拒薬のある利用者へは主治医にも確認し薬の形態の変更や飲みやすく甘めにする等で対応してい	安全な服薬支援のためのマニュアルを作成し、職員間での共有が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや洗濯干し、お茶葉の袋づめや野菜のカット、チラシでのゴミ袋づくりなど個人の特技を活かし役割を持っていただいている、また、ドライブや有線放送で懐メロや民謡など流して楽しみの時間を支援している		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防のため外出支援もドライブが多い	コロナ過で事業所内で過ごすことも多くなった。利用者の気持ちに寄り添い、楽しみとなるように、コロナの感染対策をしながら、庭の散歩やドライブを楽しめるように支援している。まん延防止が解除されたときには、家族が付き添い馴染みの美容室へ出かけたり、米寿祝の記念写真を撮るために出かけることができるように家族と調整した。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者が金銭管理が難しい為家族や職員が管理している、希望があれば職員が付き添い支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が連絡を取りたい時に自由に電話を使用できるように支援している。ご家族にも入居契約の際本人の希望があれば電話を行う旨を伝えている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入替え時に外気温との気温差が変わらないように注意しその際に不快でないかの確認を行っている。また音に敏感な方にはなるべく大きな音を立てないように配慮している	共用スペースは明るく清潔を感じられ、自宅と同じようにくつろげるソファも置いている。台所で調理している姿や香りが心地よく、五感の刺激となっている。季節に合わせた手工芸を利用者と一緒に楽しみ、完成した作品を共用スペースに掲示している。庭にベンチを設置し、お茶を楽しめるスペースにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士がお互いの部屋へ行き来したり、楽しくゆっくり会話が出来るようにお茶やお菓子を用意している。また1人になりたいと感じさせる場合は必要以上に深追いせず、入居者のペースに沿うように心がけている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や飾り物など本人の好みやご家族から本人が使い慣れた物を持ってきていただき本人主導で配置を行っている。掃除で居室に入居する際配置が変わらないよう注意をしている。	居室には、ベットやダンス、カラーボックス、洗面台が供えられ、本人の馴染みの家具や自宅で使っていたものを持ち込むことができる。家具の配置は、本人の導線に合わせて配置することができ、家族との写真などを飾り、本人が居心地よく過ごせるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやシャワー室の場所、入浴中と明記している。居室入り口に利用者の名前を張り出し自分の部屋がひと目でわかるようにしている、ベッドの高さや位置等もその人に合わせ調整している		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1-(1)	理念の共有と意識づけはサービスの根幹であり、管理者と職員の実践に大きな影響を与えることを再認識いただき、利用者とその家族に対して安心と信頼感を得られるような日々の支援に反映させられる取り組みと工夫を期待したい。	ミーティングで事業所理念を確認する	ミーティングの際に事業所理念にも続く介護を話し合う	12ヶ月
2	4-(3)	会議中止の対策として事業所運営に関する内容を書面や電話で構成員に対して郵送し、意見の有無、要望の有無や照会を行うなど、他グループホームの取り組みを参考にすることで構成員と事業所間での情報共有が機能することを期待したい。	コロナウイルス感染予防のため開催ができない場合は書面での運営推進会議を開催する	会議が開催できない月には予め資料を送付し意見を求め会議の開催とする	12ヶ月
3	6-(5)	運営推進会議同様に書面開催を模索して情報公開、共有を実現することを期待したい。	コロナウイルス感染予防のため開催ができない場合は書面で開催する	会議が開催できない月には予め資料を送付し意見を求め会議の開催とする	12ヶ月
4	7-(6)	対面だけでなく、オンラインや動画など可能な工夫を凝らした研修の開催を期待したい。	オンラインや動画サイトを活用して研修を行う	オンラインや動画サイトを見てスタッフの研修を行う	12ヶ月
5	47-(21)	安全な服薬支援のためのマニュアルを作成し、職員間での共有が望まれる。	服薬マニュアルを作成する	服薬マニュアルを作成しスタッフミーティングで情報の共有を図る	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。